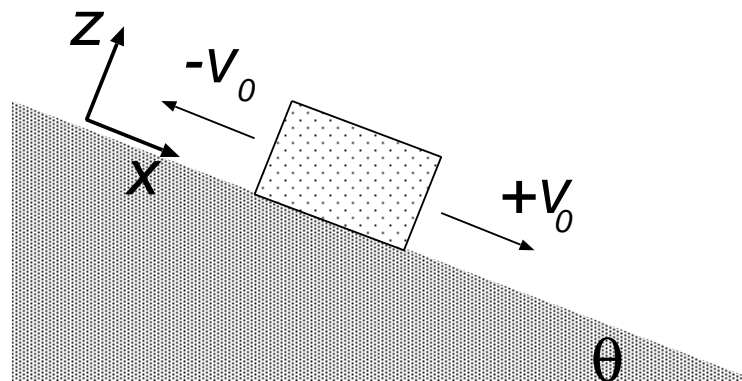


## 先週の quiz の解答

垂直抗力の大きさを  $N$  として, 運動方程式は

$$m \frac{d^2 x}{dt^2}(t) = + mg \sin \theta + \mu' N \quad (142)$$

$$m \frac{d^2 z}{dt^2}(t) = - mg \cos \theta + N \quad (143)$$



初期条件は,  $\frac{dx}{dt}(0) = -v_0$ .

斜面から離れない条件  $z = 0$  と (143) から,  $N = mg \cos \theta$ . (142) に代入して解くと,

$$x(t) = \frac{1}{2} g (\sin \theta + \mu' \cos \theta) t^2 + C_1 \cdot t + C_2. \quad (144)$$

初期条件より,  $\frac{dx}{dt}(0) = C_1 = -v_0$ .

静止する時刻  $t = T$  は  $\frac{dx}{dt}(T) = 0$  から

$$T = \frac{v_0}{g(\sin \theta + \mu' \cos \theta)}. \quad (145)$$

と求まる. 時刻  $t = 0$  から  $t = T$  までに  $x$  方向に進んだ距離は,

$$|x(T) - x(0)| = \left| -\frac{v_0^2}{2g(\sin \theta + \mu' \cos \theta)} \right|. \quad (146)$$

登った高さは,  $\cot \theta = 1/\tan \theta$  を用いて,

$$|x(T) - x(0)| \sin \theta = \frac{v_0^2}{2g(1 + \mu' \cot \theta)}. \quad (147)$$

**先週の quiz の解答** 質量  $M$  の重りをのせてぎりぎり動き出す場合を考えると,

$$0 = (m + M) \frac{d^2 x}{dt^2}(t) = F - \mu N, \quad (148)$$

$$0 = (m + M) \frac{d^2 z}{dt^2}(t) = N - (m + M)g \quad (149)$$

よって,  $F = \mu(m + M)g$  すなわち,  $M = \frac{F}{\mu g} - m$  以上である必要がある. 問題文の前半は,  $\frac{F}{\mu g} - m > 0$  を保証している.

## アンケートへの記入の一部とその返事

- きょうのやり方はよかった.
- きょうのやり方はよくなかった.
- もっとゆっくり進んでほしい
- もっと問題をたくさん解いてほしい.
- ... してほしい.
- 空欄を埋めたプリントを web に置いてほしい.
- プチテストの答案のどこが間違っていたかわからない.
- 年令と出身は.

個別にお返事できませんが、すべて読ませてもらいました。ありがとうございます。

## 9 単振動 (調和振動) と減衰振動

**quiz** パチンコで, 玉の速さを 2 倍にするには, ひきがねは何倍ひけばよいか. パチンコで, 玉の届く高さを 2 倍にするには, ひきがねは何倍ひけばよいか. 空気抵抗がある場合はどうか.

### 9.1 ばねの運動

佐本 4.4

バネの先についた物体 (質量  $m$ ) の運動を考えよう.

**自然長**: 力が加わっていないときのバネの長さ

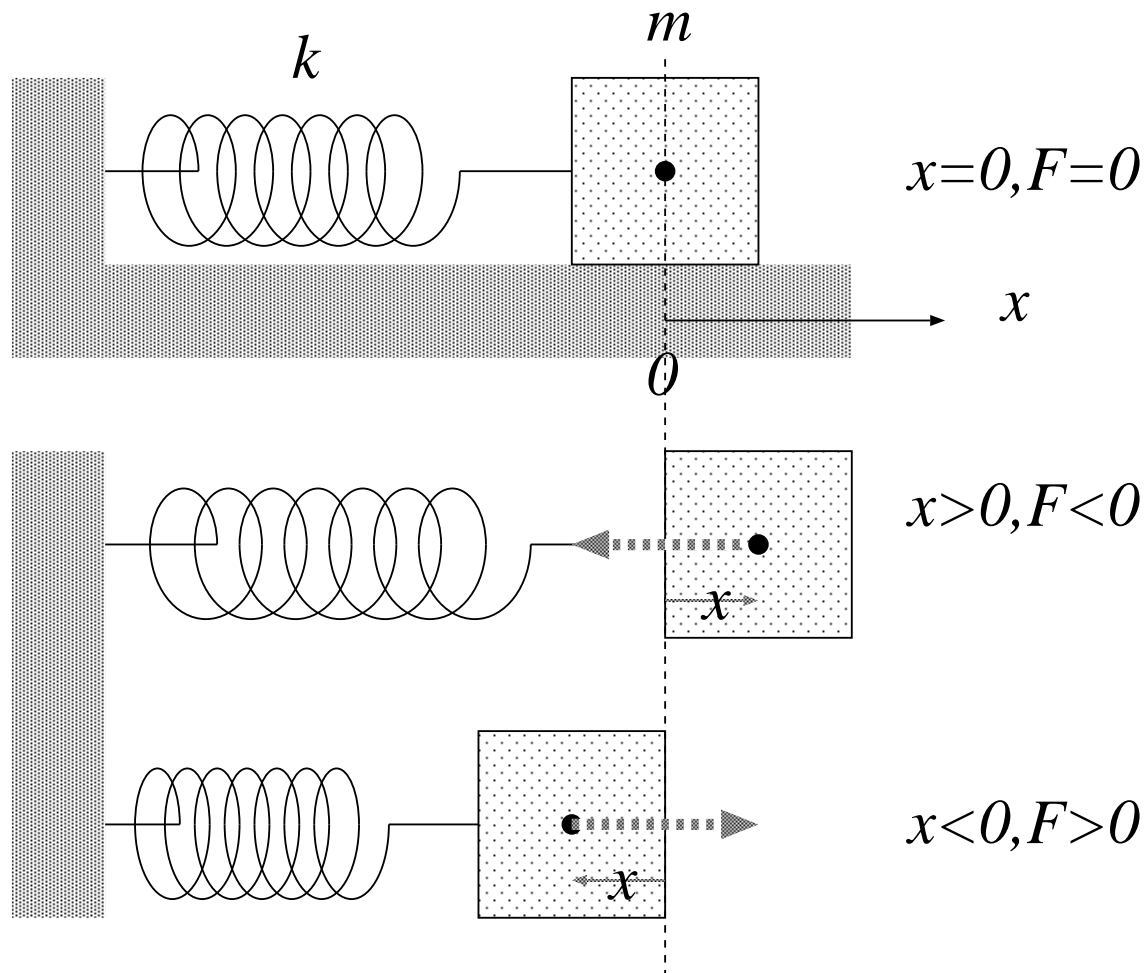
**変位**:  $x(t) = (\text{変化後のバネの長さ}) - (\text{自然長})$

$$\text{バネの復元力} \quad F = -k \times x(t) \quad (\text{フックの法則}) \quad (150)$$

$k > 0$ : **バネ定数**. バネの強さを表す.

大きさは変位に比例. 変位を小さくするようにはたらく  $\rightsquigarrow -kx(t)$

変位を小さくするにはたらく (だからマイナス).



運動方程式は

$$m \frac{d^2 x}{dt^2}(t) = -kx(t). \quad (151)$$

すなわち

$$\frac{d^2 x}{dt^2}(t) + \omega^2 x(t) = 0. \quad (\omega = \sqrt{k/m}) \quad (152)$$

この解を教えちゃおう.  $C_1, C_2$  は積分定数として,

公式

56

(153)

はこの微分方程式の解. なぜなら

$$\begin{aligned} \frac{d^2}{dt^2} x(t) &= \frac{d^2}{dt^2} (C_1 \cos(\omega t) + C_2 \sin(\omega t)) \\ &= \frac{d}{dt} (-C_1 \omega \sin(\omega t) + C_2 \omega \cos(\omega t)) \\ &= (-C_1 \omega^2 \cos(\omega t) - C_2 \omega^2 \sin(\omega t)) \\ &= -\omega^2 (C_1 \cos(\omega t) + C_2 \sin(\omega t)) = -\omega^2 x(t). \end{aligned} \quad (154)$$

実は, これ以外の解はない (来年, 数理モデル基礎 I で学びます).

このような運動を **単振動 (調和振動)** という.

**例題 14** 次の微分方程式を解き, 初期条件  $x(0) = 1, \frac{dx}{dt}(0) = 0$  から積分定数を決めよう.

$$\frac{d^2x}{dt^2}(t) + x(t) = 0 \quad (155)$$



## 9.2 空気抵抗のもとでのばねの運動

速度に比例する空気抵抗  $-c \cdot \frac{dx}{dt}(t)$  もある場合を考えよう.

$$m \frac{d^2x}{dt^2}(t) = -kx(t) - c \frac{dx}{dt}(t). \quad (158)$$

$$\frac{d^2x}{dt^2}(t) + \frac{c}{m} \frac{dx}{dt}(t) + \frac{k}{m} x(t) = 0. \quad (159)$$

このときの運動を **減衰振動** という.

一般に,

$$\frac{d^2x}{dt^2}(t) + a \cdot \frac{dx}{dt}(t) + b \cdot x(t) = 0. \quad (a, b \text{ は定数}) \quad (160)$$

というタイプの微分方程式を考えよう.

**例題 15**

$$\frac{d^2x}{dt^2}(t) + 3 \cdot \frac{dx}{dt}(t) + 2 \cdot x(t) = 0. \quad x(0) = 1, \frac{dx}{dt}(0) = 0. \quad (161)$$

実は、任意の  $C_1, C_2$  に対して、

$$x(t) = C_1 x_1(t) + C_2 x_2(t) = C_1 e^{-t} + C_2 e^{-2t} \quad (165)$$

も解になっている。なぜなら、

$$\begin{aligned} \text{左辺} &= \frac{d^2}{dt^2} (C_1 x_1 + C_2 x_2) + 3 \frac{d}{dt} (C_1 x_1 + C_2 x_2) + 2(C_1 x_1 + C_2 x_2) \\ &= C_1 \cdot \left( \frac{d^2 x_1}{dt^2} + 3 \frac{dx_1}{dt} + 2x_1 \right) + C_2 \cdot \left( \frac{d^2 x_2}{dt^2} + 3 \frac{dx_2}{dt} + 2x_2 \right) \\ &= C_1 \cdot 0 + C_2 \cdot 0 = 0 \end{aligned}$$

実は  $C_1, C_2$  は積分定数。初期条件と  $x(t) = C_1 e^{-t} + C_2 e^{-2t}$ ,  
 $\frac{dx}{dt}(t) = -C_1 e^{-t} - 2C_2 e^{-2t}$  から  $C_1 = 2, C_2 = -1$  となり、

$$x(t) = 2e^{-t} - e^{-2t} \quad (166)$$

**quiz** 配った紙にやってね。

$$\frac{d^2 x}{dt^2}(t) + 2 \cdot \frac{dx}{dt}(t) - 3 \cdot x(t) = 0. \quad x(0) = 0, \frac{dx}{dt}(0) = 4 \quad (167)$$

### 9.3 だめな例

‘ $x(t) = e^{\lambda t}$ ’ とおいてみる, は超便利. これまで出てきた他の場合にも使っちゃおう.

$$\frac{dx}{dt}(t) = 2x(t) - 1 \quad (168)$$

に  $x(t) = e^{\lambda t}$  を代入してみる.

$$\lambda e^{\lambda t} = 2e^{\lambda t} - 1.$$

$$(\lambda - 2)e^{\lambda t} = -1.$$

任意の  $t$  について成立するためには,  $\lambda = 2$  ととればいいというわけにはいかない.  $\lambda$  が定数にならない.  $t$  に依存してしまう. おかしい.

⇒ 解は  $x(t) = e^{\lambda t}$  とは書けない.

別の解を推測するか, 別の方法で解くかしよう. この場合には, 前に習った通りに変数分離法で解けばよい.

## 9.4 虚数の指数関数

‘ $x(t) = e^{\lambda t}$ ’ とおく, は超便利. 単振動にも使っちゃおう.

$$\frac{d^2 x}{dt^2}(t) + x(t) = 0, \quad x(0) = 1, \quad \frac{dx}{dt}(0) = 0 \quad (169)$$

は,  $a = 0, b = 1$  の場合. やってみよう.

$x(t) = e^{\lambda t}$  とおいてみる.

$$\frac{d^2 x}{dt^2}(t) = \lambda^2 e^{\lambda t}$$

$$\text{よって} \quad \frac{d^2 x}{dt^2}(t) + x(t) = (\lambda^2 + 1)e^{\lambda t} = 0.$$

$$\lambda^2 + 1 = 0 \rightsquigarrow \lambda = \pm i \quad (?????)$$

**虚数単位**  $i = \sqrt{-1}$  は  $i^2 = -1$  を満たす. 複素数  $x + iy$  の  $i$ .

知らん顔して計算すると,

$$x(t) = D_1 e^{it} + D_2 e^{-it}. \quad (170)$$

は解. 初期条件より,

$$x(0) = D_1 e^{i0} + D_2 e^{-i0} = D_1 + D_2 = 1. \quad (171)$$

$$\frac{dx}{dt}(t) = iD_1 e^{it} - iD_2 e^{-it} \text{ だから}$$

$$\frac{dx}{dt}(0) = iD_1 e^{i0} - iD_2 e^{-i0} = iD_1 - iD_2 = 0. \quad (172)$$

ここで  $e^0 = 1$  を使った.

解いて,  $D_1 = D_2 = \frac{1}{2}$ .

この解は  $x(t) = \cos t$  だったはず.

$$x(t) = \cos t \stackrel{?}{=} \frac{1}{2}e^{it} + \frac{1}{2}e^{-it}. \quad (173)$$

$$\frac{dx}{dt}(t) = -\sin t \stackrel{?}{=} \frac{i}{2}e^{it} - \frac{i}{2}e^{-it}. \quad (174)$$

したがって,

$$(\text{上}) + \frac{1}{i} \cdot (\text{下}) = \cos t + i \sin t \stackrel{?}{=} e^{it}. \quad (175)$$

## 9.5 オイラーの公式

気分のために  $t$  を  $\theta$  とかく.

定義. 実数  $\theta$  に対して

59

... オイラーの公式

(176)

定義. 複素数  $z = a + i\theta$  ( $a$  と  $\theta$  は実数) に対して,

60

(177)

3年で関数論を学ぶと, これで‘よい’というのが心から納得できます.



性質. 複素数  $z = x + iy, w = u + iv$  に対して,

$$e^{z+w} = e^z \times e^w$$

証明.

$$\begin{aligned} e^{z+w} &= e^{x+iy+u+iv} \\ &= e^{(x+u)+i(y+v)} \\ &= e^{x+u} e^{i(y+v)} \\ &= e^{x+u} (\cos(y+v) + i \sin(y+v)) \\ &= \cdots (\text{加法定理}) \cdots = e^x e^u e^{iy} e^{iv} \\ &= e^z \times e^w \end{aligned} \tag{178}$$

**例題 16 微分方程式**

$$\frac{d^2x}{dt^2}(t) + 4x(t) = 0. \quad x(0) = 4, \frac{dx}{dt}(0) = 0. \quad (179)$$

を,  $x(t) = e^{\lambda t}$  ( $\lambda$  は一般には複素数) とおくことによって解こう.

62

**quiz** 微分方程式

$$\frac{d^2x}{dt^2}(t) + 16x(t) = 0, \quad x(0) = 0, \quad \frac{dx}{dt}(0) = -4. \quad (184)$$

を,  $x(t) = e^{\lambda t}$  ( $\lambda$  は一般には複素数) とおくことによって解こう.

## 冬のプチテストのお知らせ

日時 12月20日(金) 14:15–15:00 (13:30–14:15 は講義です)

場所 1-107 講義室. 講義の最初から座席指定します.

成績 この試験の成績は, 科目の成績 100 点のうち 25 点を占めます.

試験範囲 12月13日(金)の講義まで. 摩擦力のもとでの運動. 斜面に沿う運動. 単振動.  $\frac{d^2x}{dt^2}(t) + a \cdot \frac{dx}{dt}(t) + b \cdot x(t) = 0$  型微分方程式. 変数分離型微分方程式.

成績の通知 冬のプチテストでもメールでの成績通知を行います. 秋のプチテストの成績も併記しますので, 登録がまだの人は登録しておきましょう.

## 補講のお知らせ

日時 12月27日(金) 2 講時 (いつもと違います)

場所 1-107 講義室.